

令和3年度 国立若狭湾青少年自然の家 教育事業

「わかさわん子ども防災キャンプ」(R3.3.6(土)～3.7(日))

国立若狭湾青少年自然の家教育事業

まちを守るジュニア防災リーダーになろう

**わかさわん
子ども防災
キャンプ**

2022 3/5(土)～3/6(日)

たくさんのはん
みつくる？
炊き出し体験！

救急法を学ぼう！

避難所って
どんな感じ？

起震車体験！！

サバイバル教室！！

対象 福井県在住の小学校4～6年生 20名
参加費 2,500円(食費、傷害保険料等)
申込 WEBフォーム：必切 2/18(金) 17:00

WEBフォーム

主催 国立若狭湾青少年自然の家
協力 小浜市防災士の会、まちの防災研究会
敦賀自衛隊、若狭消防所

お問い合わせ
国立若狭湾青少年自然の家(福井県小浜市田島区大浜)
Tel: 0770-54-3100
Mail: wakasawan-sen@niye.go.jp
担当: 吉田(よしだ)、小川(おがわ)

LINE

友だち募集中！
イラスト
GETしよう

◆目的

・近年全国的に頻発している災害について、子供たちが必要な知識を得るとともに、一人一人が防災意識を高め、もしもの場合に備えて対応方法を実践、体験することにより、災害時の行動について考える機会にする。

◆参加実績

参加 小学生 29名
(キャンセル 1名)

① 男子 11名
女子 18名

② 学年別
4年生 10名
5年生 7名
6年生 12名



◆プログラム<1日目>

- ① 受付
- ② はじまりのつどい
・所長のあいさつ、スタッフあいさつ、活動の流れの説明
- ③ アイスブレイク
- ④ 小浜市防災士の会 講和
- ⑤ サバイバル教室(福井地方協力本部)
- ⑥ 避難所体験(まちの防災研究会)

◆プログラム<2日目>

- ① 起震車体験・救急法(若狭消防署)
- ② 炊き出し体験(豚汁、おにぎり)
- ③ 炊き出し体験
- ④ おわりのつどい



◆成果

- ・防災とは何か、自分にできることは何かなど様々な問いかけを、自身のこととして考える機会となった。
- ・災害時の避難の仕方や気を付けることを知り、理解することができた。
- ・小浜市や地元の防災士の会と連携することで、子供たちはより身近に防災を感じ、学ぶことができた。
- ・避難所での体験を通して、もしもの時の想定をしながら学ぶことができた。

◆参加者の声

- ・実際にあった震災のことを聞き、多くの人が亡くなったと聞いて悲しくなりました。
- ・常に備えをしておいて、その方法を伝えることが大事だと思った。
- ・ろうそくを自分で作れることを初めて知った。
- ・災害はいつ起こるかわからないから、日ごろから準備することができる。
- ・避難の場所を確認しておくことや、道筋を確認しておくことが大切なことがわかりました。
- ・担架の作り方や、救急法を学べたのがよかった。

◆保護者の声（保護者アンケート）

- ・地震について改めて考える機会になったようで、家に帰ってどこが安全かなど確認していました。
- ・被災した時に役立つ知識、スリッパ作りや寝袋作りなど、家族としてもためになる話ばかりで、とても充実した良いキャンプだったことがわかりました。
- ・地震体験では、感じたことやどこに逃げればよいかなど、実践的な話をしてくれて、家族みんなで共有することができました。
- ・消防士や自衛隊の方からの話で、単に机の下に隠れることが全てではなく、安全なスペースに避難することを学んだようです。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

- ・野外炊事やキャンドル作りなど、体験をしながら防災を学べるようプログラム構成を考えた。
- ・防災の知識を詰め込みすぎず楽しく防災を学ぶことを意識して行った。
- ・多くの講師の方にお世話になり、様々な視点から防災を学ぶことができた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に留意して対策を行った。
- ・班での活動をもう少し意識できるとよかった。

